

2012年4月25日  
マツダ株式会社  
フォードモーターカンパニー

## マツダとフォード、オート・アライアンス・タイランド社のピックアップトラックの生産能力増強に 2,700 万米ドルを追加投資

- 新型ピックアップトラックのグローバルの需要増に迅速に対応すべく、新規投資を決定。
- 増強した生産能力は来月から稼働開始。
- AAT のピックアップ生産ラインは 2011 年にも新型「マツダ BT-50」および新型「フォード・レンジャー」の生産に対応すべく設備増強済み。

マツダ株式会社（以下、マツダ）およびフォード・モーター・カンパニー（以下、フォード）は本日、両社の合弁会社であるオート・アライアンス・タイランド社（AAT）のピックアップトラック生産設備の生産能力を年間 2 万台分増強すべく、2,700 万米ドル（約 8 億 3,700 万タイバーツ）を同社向けに追加投資することを発表しました。

AAT は新型ピックアップトラック「マツダ BT-50」および新型「フォード・レンジャー」をタイ国内および海外輸出向けに生産しています。この新規投資はロボットの追加や生産ラインのスピードアップ用の設備増強などに使用され、増強した生産能力は来月から稼働を開始いたします。

この 2 万台の生産能力の追加によって、AAT のピックアップトラックの年間生産能力 14 万台（CKD を含むと 19 万 5,000 台）、乗用車も含めた合計生産能力は 24 万台（CKD を含むと 29 万 5,000 台）となります。

この追加投資は 1995 年の AAT 操業開始以来の両社の合計投資額を約 20 億米ドル（約 620 億タイバーツ）まで引き上げるもので、一昨年にも両社は 3 億 5,000 万米ドル（約 108 億タイバーツ）の追加投資を、新型「フォード・レンジャー」および新型「BT-50」の生産に対応する設備増強やサプライヤーツールに投じています。

マツダの中峯勇二取締役専務執行役員は「今回の追加投資は、新型「BT-50」の予想を上回る需要へ対応するだけでなく、フォードとマツダの戦略パートナーシップが引き続き継続されている事を示すものです」と述べました。

また、フォード ASEAN のピーター・フリート社長は「この新規投資は、グローバルな生産・輸出拠点としてのタイに対するフォードの長期的なコミットメントの明確な現れであり、『新型 フォード・レンジャー』の旺盛な需要への対応が可能になったことを意味します」と述べました。

タイにおける最新の自動車生産拠点の一つである AAT 社は、その世界標準の品質基準やコスト競争力を通じて、ASEAN 地域の自動車製造の底上げに大きく寄与してきました。

AAT はピックアップトラックである新型「BT-50」および新型「フォード・レンジャー」に加え、SUV の「フォード・エベレスト」、乗用車の「フォード・フィエスタ」、「Mazda2（日本名：マツダ デミオ）」および「Mazda3（日本名：マツダ アクセラ）」をタイ国内および海外輸出向けに生産しています。

以 上